

令和6年12月7日(土)
三木市教育委員会

三木城本丸跡・二の丸跡発掘調査現地説明会資料

1 はじめに

国指定史跡「三木城跡及び付城跡・土塁」のうち、中核をなす三木城本丸跡・二の丸跡について、遺構の確認や整備を行うに当たり、令和４年度から６年度にかけて発掘調査、令和７年度に調査報告書の作成を予定しています。本年度は、三木城本丸跡・二の丸跡の発掘調査を実施しました。

2 調査の概要

(1) 期 間

令和6年11月12日～令和6年12月13日

(2) 調査箇所

三木市上の丸町（上の丸公園・旧上の丸庁舎跡）

(3) 面積

約 168 m²

(4) 成果

ア 本丸跡

- R6-1

平成 19 年度調査で確認された 16 世紀末頃に埋められたとみられる内部を区画する堀（深さ約 3m）の南肩延長部分が見つかりました。堀東肩の検出が想定されましたが、今回の調査区では見つからなかったため、さらに東側にあるものと考えられます。

イ 二の丸跡

• R6-2

令和4年度調査で確認された元和元年（1615）の廃城に際して埋められたとみられる堀（深さ 2.4m以上）の北肩及び西肩延長部分が見つかりました。その内側は堀の埋土となっています。

• R6-3

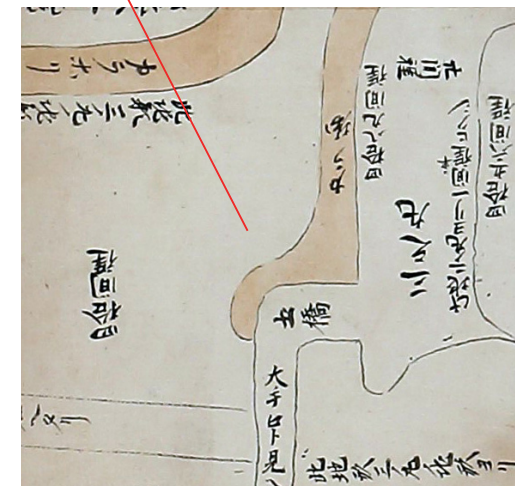
堀の南側延長部分が見つかり、西肩を検出しました。堀は調査区外の南側にさらに延びていきます。近代に盛土造成されるまでは、東側に傾斜していたことから、堀が完全には埋没していなかったことがわかります。

3 まとめ

二の丸跡で見つかった堀については、『播州三木古城図』にL字状に描かれていたことから、前回調査の段階では虎口（出入り口）を形成するものであったと推測していました。ただ、R6-3 よりさらに南に堀が延びていくことが判明したことにより、再考する必要が生じました。R6-2・3 間について、堀が途切れて通路となっていたのか、それとも繋がっているのか、今後の検討課題です。



三木城本丸跡・二の丸跡 調査区配置図



播州三木古城図（三木市教育委員会蔵）